

岡病防第10号
平成20年9月3日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成20年度病害虫発生予察予報第6号

平成20年9月3日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	穂いもち病 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — — —	やや少 やや多 やや並 やや多 やや並 やや少
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	並 並 やや少 やや並 やや多
モモ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — 遅	少 やや多 並
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	少 やや少 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 並 並 やや少
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	やや少 並 少
アブラナ科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	並 並 やや少 やや多
キク	ナミハダニ	—	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. イネ (晩生種) の生育はおおむね平年並である。
- イ. 8月14～15日および18～19日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は22.9%で、平年 (55.9%) より少ない。
- ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、これらは発病を抑制する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 8月中旬以降に降雨が続き、南部地帯の一部でいもち病の発生に好適な条件となったため、いもち病が発生している圃場では穂いもちの防除を行う。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 8月14～15日および18～19日の巡回調査によると、発生圃場率は52.2%で、平年並 (平年：58.4%) であった。
- イ. イネの茎数は平年並～やや多い。
- ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病を助長する条件である。

(3) 白葉枯病

予報内容 (中生種、晩生種)

発生量 並

予報の根拠

- ア. 8月14～15日および18～19日の巡回調査では、平年並に発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (晩生種、ごま葉枯病菌による穂枯れ)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 8月14～15日および18～19日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は46.7%で、平年 (36.2%) よりやや多かったが、発病程度の高い圃場は認められなかった。
- イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病を助長する条件である。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 前年の発生量が平年よりもやや少なかったため、種子の保菌率も平年よりもやや低かったと考えられる。
- イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病を助長する条件である。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月の予察灯への飛来は津山市では0頭で平成(132.6頭)より少なく、赤磐市でも2頭で平成(7.7頭)より少なかった。

イ. 8月下旬における県予察圃場(赤磐市)での発生密度は0頭/株で平成(0.02頭/株)並に少なかった。

ウ. 8月14~15日および18~19日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平成(4.0%)より低かった。

エ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平成より高いとされており、増殖に好適な条件である。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14~15日および18~19日の巡回調査では平成どおり発生を認めなかった。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14~15日および18~19日の巡回調査では平成どおり茎葉の発病を認めなかった。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月14~15日および18~19日の巡回調査では発生を認めず、発生は平成よりやや少なかった。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月の誘殺数は赤磐市で730頭と平成(1928.5頭)より少なく、津山市でも398頭と平成(1018.8頭)より少なかった。

イ. 8月14~15日および18~19日の巡回調査によると、発生圃場率は3.5%で平成(4.9%)よりやや低かった。

ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平成より高いとされており、発生を助長する条件である。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月の誘殺数は、アオクサカメムシでは7頭で平成(15.1頭)に比べ少なかったが、イチモンジカメムシでは112頭

で、平年（9.9頭）に比べて多かった。
イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

2. 果樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 8月8日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（5.0%）より低かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月の誘殺数は0頭で平年（36.4頭）より少なかった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月8日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は67.9%で平年（44.6%）よりやや高く、被害程度が中程度以上のほ場率は42.9%で平年（16.7%）より高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

(3) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月31日で平年（8月25日）より遅い。

イ. 県予察圃場及び一般圃場における発生量は平年並であった。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査での発生は認められなかった。

イ. 県予察圃場でのピオーネの発病葉率は30.0%で平年（63.9%）よりも低かった。

(2) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査によると、発生圃場率は72.7%で平年並（平年：74.0%）であった。また、発病程度は平年よりやや低かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病を抑制する条件である。

(3) さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査では発生を認めておらず、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 本病原菌は乾燥条件を好むが、8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、これらは発病を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬幼虫による5～6月の被害枝の発生は平年並であった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月25～27日の一般圃場における発生量は平年よりやや多かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月25～27日の一般圃場における発生量は平年より少なかった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月25～27日の一般圃場における発生量はやや少なかった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月25～27日の一般圃場における発生量は平年並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや抑制する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月25～27日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月25～27日日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、これらは発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 8月25～27日の巡回調査によると、一般圃場における発生量は平年より少なかった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 8月25～26日の巡回調査によると、一般圃場におけるアブラムシ類の発生は平年よりやや少なかった。モザイク病の発生は平年並であった。

イ. 黄色水盤における8月の飛来数は、赤磐市では470頭で平年(474.0頭)並、津山市で557頭で平年(912.5頭)よりやや少なかった。第4半旬以降、2地点とも飛来数に増加傾向が見られた。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月の赤磐市及び津山市におけるフェロモントラップの誘殺数はともに0頭で、平年(赤磐市:8.9頭、津山市:4.1頭)より少なかった。

イ. 8月25～26日の巡回調査によると、ダイコン、キャベツ等での発生は平年よりやや少なかった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月28日の巡回調査によると、チンゲンサイ、キャベツ等での被害発生圃場率は54.2%で、平年(25.1%)より高かったが、被害程度は軽微な圃場が多かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされてお

- り、本虫の発生をやや助長する条件である。
- 防除上の参考事項
- ア. 本虫は夏期が高温・乾燥状態で経過すると、突発的に大発生する傾向がある。8月は高温少雨で推移したため、今後の発生状況に応じて薬剤による防除を行う。
 - イ. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。
 - ウ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

4.花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 8月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年よりやや少なかった。
- イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発生をやや助長する条件である。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード